■磯谷利三二　天保 13 年（1842）7 月～明治 37 年（1904）5 月
　静岡漆器変わり塗りの開発者

　生家は代々刀剣の研師を職としていた。先祖は徳川家康公に従い山城国伏見より駿府に移住。父利右衛門生存中、神田お玉が池木屋五郎左衛門につき刀剣鑑定を研究した。
　明治 6 年（1873）の廃刀令によって先祖伝来の職を失う。ここに静岡市の物産を盛んにしようと発意し漆器商に転業した。

　爾来、漆器の改良と新規発明を志し、刀剣の鞘に用いる塗り方を応用した変わった桑漆法を施した製品を製作して、本市の漆器の地位を高めた。
　磯谷の塗法を一般の商工家は盛んに応用して、「変わり塗り」と称して静岡漆器の改革を成し、変わり塗りといえば静岡漆器という代名詞までになった。
　明治 13 年（1880）オーストラリア・メルボルンの万国博覧会に漆器を出品したのをはじめ、各地の共進会、博覧会、また万国博覧会で褒状、賞牌を受けること多数であった。
　明治 18 年（1885）には東京上野に五品共進会を設置し、出品および販売を行っていた。
　明治 22 年（1889）5 月のパリ・フランス革命記念万国博には、中川専蔵とともに出品している。
　磯谷の弟に長尾建吉がいる。磯谷利右衛門の三男である。日本における西洋額縁の先駆者であり第一人者である。簡単に略歴を紹介すると、
　明治 11 年（1878）パリ万国博覧会に日本代表全権松形正義の随員として参加。山本芳翠黒田清輝両画家の知己をえる。
　明治 13 年（1880）商業視察のため渡米。
　明治 24 年（1891）山本芳翠より進められ、洋風額縁研究所に入所。
　明治 25 年（1892）同研究所が類焼したため、愛宕町に小工場を建て、日本で初めて額縁屋を開業。
　明治 38 年（1905）愛宕町から港区芝に移転。官公庁をはじめ多くの作家を顧客として営業。
　父磯谷利右衛門が明治 14 年（1881）12 月に死去し、建吉も静岡に戻ってきていた前記の略歴からも、アメリカから帰り、額縁製造を始める明治 24 年（1891）までの記載がないが、子息の長尾一平の著した「嶽陽長尾建吉」の中に、塗師屋時代に触れたものがあり、それによると詳細な時期は不詳であるが、粗製乱造を続けていた静岡の漆器業界を憂いて、静岡漆器工業社設立に尽力している。この構成員に
　研屋町　磯谷利三二　　平屋町　山本安兵衛　　本通四丁目　中川専之助
　本通八丁目　中川専蔵　上石町　池田庄五郎　がいた。
　また同書に、兄利三二のもとに寓していた折、兄を手伝って静岡漆器の「変わり塗り」開発に功績を残しているとある。

父の死後、静岡の漆器業界を憂う兄や同志とともに、髹漆の技術の発展に寄与したものと思われるが、以後、東京の山本芳翠を訪ね洋額縁の製作に携わっていく。利三二もまた、明治 30 年（1897）頃廃業した。